

受領No. 1607

ナノ・マイクロプラスチック汚染の不確実性を伴うリスクに対する予防的措置のあり方に関する研究—科学技術をめぐるリスク政策とイノベーション政策の相乗効果の観点から—

代表研究者 中山 敬太（九州大学 助教）

Study on precautionary measures regarding the uncertain risks of nano/microplastic pollution : From the perspective of synergistic effects between risk policy and innovation policy regarding science and technology

Representative Keita Nakayama (Assistant professor, Kyushu University)



研究概要

近年、日本をはじめ国際社会にて特に海洋ごみの一環として問題視されているナノプラスチック及びマイクロプラスチックの科学的な不確実性を伴うリスクに着目し、第一にその予防的措置の可能性について、EU やアメリカなどの諸外国の規制方針等の動向も踏まえながら、当該問題をめぐる日本の現状と本質的課題を示す。その上で、現在注目されているナノ・マイクロプラスチックの海洋汚染だけではなく、当該大気汚染や土壌汚染から生じる科学的な不確実性を伴う身体的なリスクにも焦点を当て、日本の規制体系やリスクガバナンスにおける現状分析及び新たな予防的措置の可能性を検討することによって、今後のナノ・マイクロプラスチックをめぐるリスク規制体系やその管理アプローチのあり方に関して新たな視座を示す。

具体的には、ナノ・マイクロプラスチックの中でも、特に先行研究の相対的に少ない科学的な不確実性を伴うリスクの蓋然性の度合いが相対的に高いナノ領域（ナノプラスチック）に注目し、その身体的リスクに関するメカニズムの解明やその議論の現状を踏まえ、プラスチック汚染関連の科学技術をめぐるリスク政策とそのイノベーション政策（産業イノベーションや科学技術イノベーションを含む）における相乗効果の観点から、日本における予防的措置の可能性について検討し、新たな政策的示唆を示すことが本研究の概要及び目的である。

以上